

平成 24 年度 第1回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録  
及び第3回楽しさ森<sup>2</sup>調査についての報告

開催日時

平成 24 年4月28日(土曜日) 9時～16時00分

開催場所

中島町地域センター2階 集会室及び近隣の雑木林の森

出席者

- 1 小平市森のカルテ作成準備委員会  
椎名委員長・山田委員
- 2 雑木林調査隊  
9名参加
- 3 事務局  
2名

調査内容

- 1 野草の同定とは何でしょう。
- 2 同定作業の範囲を決めましょう。
- 3 野草の同定作業を中心とした森の調査を始めましょう。
- 4 サイレント・リスニングを始めましょう。

< 報告内容 >

1 野草の同定とは何でしょう。

生物の種や名を調べることをいう。種を決定するには、文章や写真による説明が、その仲間に共通の特徴であるのか、種を判別するのに使える特徴であるのかを区別することが大事である。

**【ポイント】**

まずは植物などの種類が分かることが、森への興味のきっかけとなり、更にその植物の性質などを調べることで森の現状や森の歴史そして森の魅力を感じることになる。

2 同定作業の範囲を決めましょう。

広範囲の植生調査も必要かもしれませんが、じっくりと同定作業を行うには、森の林縁部と林床部も含んでコンパクトサイズで実施しましょう。

**【ポイント】**

午前中は同定するための写真収集、サイズや香りの情報収集が中心で、午後にその写真などの情報を全員で共有して(このことを振り返りと言います)、図鑑などから同定作業を行う。そのような作業ができる程度の調査範囲を選ぶ。



### 3 野草の同定作業を中心とした森の調査を始めましょう。

広範囲の植生調査も必要かもしれませんが、じっくりと同定作業を行うには、森の林縁部と林床部も含んでコンパクトサイズで実施しましょう。

#### 【ポイント】

午前中は同定するための写真収集、サイズや香りの情報収集が中心で、午後にその写真などの情報を全員で共有して(このことを振り返りと言います)、図鑑などから同定作業を行う。そのような作業ができる程度の調査範囲を選ぶ。

ID	草	2012年	春	22	種類	キンラン
						
A班調査						
特	徴	多年草。高さ30~70cm。葉がチューリップの葉が何段も重なったよう。開花(4~6月金色)				
雑	木	林	視	点	典型的な雑木林の野草である。	

  

ID	樹木	2012年	春	23	種類	クサイチゴ
						
A班調査						
特	徴	落葉小低木。高さ20~60cm。卵形V字型の葉脈、縁は鋸歯のある葉。開花(4~5月白色)				
雑	木	林	視	点	雑木林で見られることもある。	

雑木林視点が一番の特徴。同定するだけでなく、歴史ある小平の雑木林との関わり方について記述したもの。

特徴は、植物の由来や性質を中心に記載する。

この日の調査では、64種類の草や木そしてキノコを同定した。詳細は別紙調査結果表のとおり。

#### 4 サイレント・リスニングを始めましょう。

サイレント・リスニングとは、雑木林の森の音を身体で感じて見ようというプログラムである。日頃、情報機器や街並みの雑音の中で生活している我々は、雑木林の息づかいを感じないで生活している。5分間で良いので、耳を研ぎ澄ませて音を聞いてみよう。小鳥のさえずりや風の音、葉の音などを言葉にしてみよう。

(ルール)

- ①何を見つけても声に出さない。
- ②ジェスチャーで会話する。
- ③鳥や昆虫の場合は刺激しないように近寄る。
- ④音を記録したり、映像を簡単に記録する。

#### 【ポイント】

耳を研ぎ澄ませて自然の音を聞くことは、それほど機会がないことから、音の感覚を大切にすることが重要。



サイレント・リスニングをやった後の集合写真です。気持ち良かったですよ。  
たまたま見つけた倒れた樹木に座りながらやってみました。  
事務局もサイレント・リスニングやっていたら、気分が良くて、リスニング中の  
撮影を忘れてしまいました。集合写真だけでごめんなさい。  
みなさん良い笑顔ですねー

## 平成 24年度 第2回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録(報告)

### 開催日時

平成 24 年7月 9 日(月曜日) 13 時 30 分～15 時 30 分

### 開催場所

小平市役所3階 301 会議室

### 出席者

権名委員長 山田委員

雑木林調査隊 8名

事務局 2名

### 会議次第

#### 1 開会

#### 2 事務局報告

(1)全国花いっぱい小平大会での取り組みについて

#### 3 議事

(1)平成23年度活動結果及び平成24年度活動予定について

(2)第3回楽しさ森<sup>2</sup>調査結果について(委員長によるプレゼン含む)

(3)雑木林の視点について

(4)第4回楽しさ森<sup>2</sup>につい調査企画案について

(5)今後のスケジュール

(6)その他

#### 4 閉会

##### 配布資料

資料－1 全国花いっぱい小平大会での取り組みについて

資料－2 平成 2 4 年度活動結果及び平成 2 4 年度活動予定について

資料－3 第 3 回楽しさ森<sup>2</sup>調査結果について

資料－4 雑木林の植物たちの一覧

資料－5 雑木林の野草の一覧と調査結果の突合表

資料－6 第 4 回楽しさ森<sup>2</sup>につい調査企画案について

### <議事>

1 平成 2 3 年度活動結果及び平成 2 4 年度活動予定について

(事務局の説明)

2 第 3 回楽しさ森<sup>2</sup>調査結果について

(委員長によるプレゼンテーション)

## 委員長

4月実施された森の調査の同定作業の中で色々な言葉が出てきたので、言葉の整理も含めて雑木林に関係するプレゼンテーションを行いたい。

(以下プレゼンテーション内容)

ぞうきばやし ぼっさいあとち

### 雑木林の伐採跡地の植物について

最初に取り上げたのは、雑木林伐採の時の植物である。萌芽更新のために一定区域の樹木を全て伐採することを皆伐、選んで伐採することを択伐という。皆伐をすると、今まであった林辺と同じ植物が再び芽を出し成長するわけではない。眠っていた種子が一斉に発芽し、数年から10年ぐらいかけて、それらの中の一部の植物が林をつくろうとし占有する。萌芽更新されたクヌギ、コナラやエゴノキ等が最初に林を作るわけではなく、他の植物がでてきてしまう。アカメガシワはその代表的な植物である。他には、タラノキ、クサギ、ヌルデ、イボダノキ、ミズキ、ネムノキ、モミジイチゴなども同じである。モミジイチゴはどちらかという半分草本みたいなものだが、低木扱いである。最近では、外来種のトウネズミモチなども出てくる。

こういう植物を先駆植物とかパイオニア植物と言う。なぜこうなるかという、伐採することにより、日照条件、成育環境が大きく変わってくるからである。今まで林の中での日照条件で高木があつたり、低木があつたり、競争の中で日照を求め、上に伸び、勝ったものが高木になっていくというのであつたが、そういうものを取り払ってしまうので大きく変わる。日照条件が良くなったことで、発芽力が旺盛なもの、成長力が極めて早いものなど強い力を持つもの同士による早いもの勝ちの世界になってくるのである。林の中には色んな種が落ちている。それが土の中に入っていて、日陰がなくなり、日照がよくなることで一斉に芽を出すのである。また、最近、都市部では、草本・樹木類には外来種の侵入が著しい。外来植物もかなり入り込んで伐採跡地の植物ともなっている。

雑木林視点でいうと、萌芽更新をやると、最初は色んな植物が出てきて、雑木林にならないということだ。先駆植物は、発芽力、成長力は早い、植物としての耐久性に乏しいので、月日が経つと、本来その土地に適合した植物にとってかわるということだ。雑木林は人為的作業が加わることがあるのでその方向に向けていくこともあるが、一般的に言えば、その土地に適合した木にとってかわるということである。

しょうようじゅりん

### 照葉樹林について

次に、照葉樹林の説明をする。温帯地域に成育する常緑広葉樹林の一つの形態である。ヤブツバキに代表される葉の表面が光輝く樹木である。他には、クスノキ、ユズリハ、ヤブニッケイ、シロダモ、ヒサカキ、タブノキなどがあるが、他にもまだまだたくさんある。照葉樹林とは、考え方の一つとして、熱帯雨林と温帯常緑広葉樹林があり、温帯広葉樹林の中を硬葉樹林と照葉樹林の2つに分けることができる。熱帯雨林は常緑広葉樹林であるが、温帯の樹林では、冬に葉を落とす落葉広葉樹と常緑広葉樹が混じる。雑木林の中でも、クヌギやコナラの落葉とシラカシの常緑とが混じっている。しかし、寒い冬では、常緑を維持するために、耐寒性を高める手段として、温帯地域の常緑広葉樹は熱帯雨林に比べて葉の大きさが小さく厚みがある傾向にある。熱帯の方に行くと、葉も大きくて、ふわふわしている葉があるが、ツバキとか熱帯に比べて葉が小さく厚みがある傾向がある。

温帯の常緑広葉樹林は、2種類に分けることができる。ひとつは夏期に雨の少ない地中海地

方に見られる硬葉樹林で、葉を硬く小さくて水分の蒸発を少なくする構造となっている。オリーブやコルクガシが代表的である。オリーブは、日本では小豆島が産地であり、瀬戸内気候がいくらか似ているのでオリーブが産地となっているようである。日本など夏期に温帯多雨に成立するのが照葉樹林で、葉は硬葉樹より大きく、表面のクチクラ層が発達し、気孔の上に表面の組織がある、その上につけるワックスが多く光って見えるため照葉樹林と呼ばれている。代表的なものがツバキである。

#### \*クチクラ層

葉の表皮の外側を覆う透明な膜のこと。

#### ぞうきばやし せいしょくぶつ 雑木林のつる性植物について

植物は日照を求めてしのぎをけずっている。高木は他の植物より早く、より高く、成長することで光を獲得した。その樹木に巻き付いたり、吸いついたりして日照を獲得しようという生態系を持つのが、つる性植物である。雑木林では、林辺部に多くみられる。写真は、玉川上水、野火止用水の森の中にあるつる性植物を撮ってきたものである。オニドコロ、センニンソウ、シオデ、アカネ、ツルウメモドキ、ミツバアケビ、アマチャヅル、ノブドウ、キレハノブドウ、サルトリイバラ、ウmanosズクサ、クズ、スイカズラ、ヒヨドリジョウゴ、アオツヅラフジ、ナツズタ、ビナンカズラ、テイカカズラ、フユヅタ等がある。ビナンカズラ、テイカカズラ、フユヅタの3つは常緑であり、あとは落葉である。

雑木林以外のものは、ヤブガラシ、ヘクソカズラ、街の中で花が咲いていると結構きれいである。ヒルガオ等まだまだたくさんある。

#### ぞうきばやし こうぼくそう あこうぼくそう ていぼくそう そうほんそう 雑木林の高木層・亜高木層・低木層・草本層について

高木層・亜高木層・低木層・草本層という分け方は、雑木林の構成分布から分けるのがひとつ。高さを基準として、何メートル以上は高木層にしよう、何メートル以下は亜高木にしようというように高さで分ける考え方。そして、雑木林の断面構造から出される層分の区別によって出てくる名前、一番高いのが高木層、次が低木層、地べたを這っているのが草本層。同じ樹種でも、このムクノキは亜高木層であるが、こちらのムクノキが一番高いので高木層というようにわかる。同じ樹種でも違ってくる。

草本と言っても木本、草本に分けることもある。木本とは、幹が木質化しているものである。草本とは、木質化しないものである。雑木林の場合は草本という扱いになる。層という言葉がつくと、森の構成層の断面図の構成の中で考える。

#### ぞうきばやし りんべんぶ りんしょうぶ 雑木林の林辺部・林床部について

雑木林の林辺部中では日照条件が違う。雑木林の中では育たないが、林辺部では育つという植物もある。林辺部は、少し日陰あったり、太陽の当たる時間が違ったりもする。

林床部というのは日照が非常に少ない。腐葉土の堆積が非常に多いので、植物にとっては日照条件も含め非常に安定した条件である。雑木林の場合は、冬であっても葉が落ちるので日照がある。落葉樹は展葉といって葉っぱが開く時期が4月の半ばである。日照は3月から強くなる。3月から4月の半ばまでの1カ月くらいで葉っぱを開いて、日照を充分受けて、来年の養分をためこんでおく植物が成長する。例えば、その代表的な植物がカタクリである。カタクリは今の時期に行くと葉っぱはない。アズマイチゲなどのキンポウゲ科の草本なども同じである。

わずか3月から4月の1カ月の間で十分に日照を受けて光合成をして、来年に花を咲かせる養分を蓄える。この辺が雑木林の林床部の場合である。他の林床の植物はまだたくさんある。ちなみに林辺部と林縁部は同じ意味である。

#### がいらいしよくぶつ き かしよくぶつ 外来植物・帰化植物について

国外から人為的手段で日本に入ってきた植物を外来植物と言う。なぜ人為的手段かと言うと自然の海流で流れついて芽をだせば外来植物ではないのである。これは立派な日本植物である。また、外来植物の種を放置して、勝手にばらまかれ繁殖が繰り返された植物を帰化植物という。

人為的手段で持ち込まれた例として、クレソンは料理用の作物であり、チョウセンアサガオは、エンゼルトランペットとよばれ、夏に花が咲き、夜になると匂いがすごい、これは薬用植物として麻酔薬として持ち込まれ使われたようである。洋芝は牧草として、ムラサキカタバミは園芸用、ポプラなどはパルプ用材として持ち込まれたものである。

意図しないで持ち込まれた植物もたくさんある。例えば、5月の初めごろ、道路端に咲いているナガミヒナゲシは極小の種が飛んで繁殖ものである。シロツメグサは梱包材として使っていた。最近では、アメリカオニアザミ、さわるとトゲがすごく痛い。皆さんの家にも時々生えて何年かするとなくなるのがタカサゴユリである。2メートルぐらいになり、結構良い花が咲く。台湾からである。昔入ってきた代表がイチョウとかウメである。

#### とくていがいらいしよくぶつ 特定外来植物について

外来生物法といって、外来生物に関する法律で、動物、植物等を対象として規制している。生態系、人の生命・身体、農林業への悪影響を及ぼすものを規制している。どういう規制かというと、栽培したりしてはいけない。保管も運搬もしてはいけない。具体的には、野外に離したり、植えたり、蒔いたりするのも禁止である。植物では12種類が指定されている。オオキンケイギクは特定外来種に指定されていて、本来は、栽培等はしてはいけない。結構、竹藪や、若干荒れた畑で見かける。この辺では見かけないが、オオハンゴンソウは、北海道や東北、中部高地で繁殖している。本来なら見かけたら除去すべきものである。要注意外来植物というのは規制はないが、生態系に悪影響を及ぼしうることから、適切な取り扱いについて理解と協力をお願いしている。80種類以上あるが、身近なものでは、オオブタクサ、ハルジオン、ヘラオオバコ、オオオナモミ、アメリカオニアザミ、ヒメムカシ、ヨモギ、ムラサキカタバミ、メリケンカルガヤ、ホテイアオイ、ヒメジオン、ワルナスビ、ブタクサ、ハリエンジョ、セイタカアワダチソウ、キショウブ、ブタナ、トウネズミモチなどである。

#### えんげいしよくぶつ 園芸植物について

品種改良などによる植物で、この写真にあるように多種多様な園芸種の植物が園芸店で販売されている。

(以上プレゼンテーション内容)

(質疑応答)

#### 調査隊

大学の研究か大麻を見たことがある。花はきれいだが種が移ってきて自然に生えてしまった。

## 委員長

ケシの種が多いが、今年はニュースで聞かなかったが、管理者が知らなくて、間違えて植えてたり、風で飛んでいって芽が出るものもある。大麻ではないがトリカブトは小平市内の民有地で見たりする。これはまずいなと思うが、花がきれいだから、知らないで持ってきて植えてしまうこともあるだろう。小平は河川敷がないから幸いだが、河川敷がある所は、けっこう種が流れつくとか、もちろん風の影響もある。また、河川敷には鳥がたくさんいるから、鳥の足について発芽する危険性もある。

## 事務局

雑木林の高木層、亜高木層を見ると、同じ樹木が、亜高木層であったり高木層であったりしているということは、ある種の樹木が高木か亜高木であるかというのではなく、相対的な位置関係の問題か。ケヤキが高木であったり、亜高木であったりということか。

## 委員長

そういう見方もある。東京都の自然法条例によると何メートル以上が高木なのかと言っている。図鑑などを見ると高木とか書いてある。ケヤキは高木と決めている。しかし、雑木林で森のカルテを作ろうという時には相対的なものとして捉えた方がよい。

後継ぎがいるかどうかの問題である。例えば、林床部に2メートル位のシラカシなどの常緑樹がいっぱいあると、クヌギやコナラなどは発芽しても育たない。コナラやクヌギの後継ぎではなくシラカシが後継ぎということを表している。このまま森を育てていくとシラカシの森になってしまう。野火止用水をはさんで、小平市の栄町の森と、東大和市の新堀の森の両方ある。小平の方は、シラカシを切っているから雑木林として維持されている。東大和市の新堀の森はシラカシの森になっている。その下には、ヤブニッケイ、シロダモなどの常緑樹が、上が枯れて倒れるのを待っている。その森が健全かどうか判断する時に、2番手、3番手がちゃんと育っているかどうかを見るのが重要である。

(事務局より資料3、4、5の説明)

## 委員

資料3の題目であるが、野草と樹木と菌類をひっくるめていいのか。植物と菌類か、野草たちとキノコ類にするとか。何をしようとしているのかわからない。資料4の雑木林の植物たちというのはわかる。その中に樹木があるのもわかる。そうすると題目を変えなくてはいけない。

## 事務局

野草たちではなく植物たちに統一しようと思った。植物などの中に菌類を入れるのはどうか。菌類を他でくくるには数が少ない。

## 委員

雑木林の位置づけからすると菌類は多い。小平の雑木林には126種類の菌類が発見されている。また、土壌改良あるいは雑木林の生態性としては必要なものである。

## 事務局

雑木林の植物と菌類としてはどうか。

## 委員長

それがよい。



## 事務局

資料5の突合については、菌類の書籍や資料はどうするか。

## 委員長

委員から提供してもらいそこから抽出すればよい。どの資料を選んでも完璧なものはない。しかし、菌類だけがないのは資料として不十分である。

## 事務局

同定が難しいものがある。資料3の8ページのID41のトキイロカワラダケである。

## 委員

トキイロカワラダケの場合は表面がデコボコにはならないので、ホウズキタケと思われるが、ホウズキタケはもう少し褐色である。形は同じだが、色が違うから同定できない。色んな資料を見たが同定できない。トキイロカワラダケを抹消するか、ホウズキタケ類とするかどうか。

## 委員長

書かないで特徴だけをいやすか。同定不可で、ホウズキタケ類か、とするか。極端に言えば、菌類は短時間で変異する。極端に言えば新種かもしれない。変異のサイクルが早いからわからない。人間は何千年もかけて形成されるが、菌類はジェネレーションのサイクルが短いので、細菌類の鳥インフルエンザがどんどん毒性がでてくるのと同じである。同定不可と記載するか削除する方がよい。

## 委員

雑木林にあることは間違いないから、小平の雑木林にあったと、今後の小平雑木林探検隊のひとつの課題としてテーマとして勉強してもらいたい。

## 委員長

季節で色が違うこともある。

種類はホウズキタケ類、下はそのまま特徴をいやす。トキイロカワラダケは違う。

## 委員

ID62番、ヤマユリと同定したがどうか。

## 委員長

次回は同じ場所の調査であるのか。

## 事務局

同じ場所を予定している。

## 委員長

同じ場所なら花が咲いて終わっていれば同定できる。ヤマユリかオニユリか、コオニユリというのもある。

## 委員長

次回の調査を楽しみに。外来種のタカサゴユリではない。今はヤマユリという表現でよい。次回、忘れないように花などを確認する必要がある。

## 3 雑木林の視点について

### 事務局

雑木林視点のイメージは、小平の雑木林ができた時点というか、薪や炭など色んな資材とし

て活用されて、人が手入れしながら更新してきたころの雑木林をイメージしている。資料の「郷土こいだいら」については、昭和42年に編集された書籍で、小平の自然が記載されており、その中に雑木林の記載もされている。辛うじて、人の手入れがされていた頃の雑木林の状態が記載されているのではないかとということで選定したものである。

#### 委員

雑木林は、この38年から40年の間に変わってきている。森のカルテは小平らしい質の高い森をあげている。将来どうかたちで行政や市民が、どういう管理をしていくかということを決める資料になる。そうすると、今のお話みたいに、これはふさわしい、ふさわしくないとかたちになると思う。今から38年から40年前の雑木林の視点として見るのは正しいとなる。

#### 委員長

それに近づける努力というか。

#### 委員

あくまで次のステップは保全と管理になる。森のカルテの内容が、今の雑木林の現状を把握するだけであれば、雑木林にぜんぜんないものあることになる。生えてもしょうがないものであるということをきっちりとしてあげればよい。

#### 事務局

小平市も基本は、昔の薪炭林というか、生活に使っていた時代の雑木林に長期的であるが戻していきたいと考えている。現状の小平の雑木林では、一種低層住宅の所に、4階5階の建物と同じくらいの高さの樹木に育ってしまい、日照権や健康被害に及んでいるケースさえもでてしまっている。そういった事実から、ランニングコストの部分、つまり毎年、隣地の方に伸びた越境枝の剪定に、その都度クレーン車を持ってきて数万円かけて維持管理をしているのではなく、今、少しずつ基本的には隣地から5メートル圏内に入っているものは伐採をしているところである。将来的には、除間伐して高さを下げていき、維持管理も業者ではなく、地域住民の方の手でもできるような状態になれば良いと考えている。そういった意味では、30から40年前に行われていた萌芽更新といった管理が行われていた時代に戻れば一番ありがたいと考えている。

#### 委員長

ただ、周りの環境が違うから配慮しなくてはいけないが、中心の部分はなるべくそういうふうにしていくということか。

#### 委員

雑木林視点ということは、何を指していくかということを確認にすることになる。

#### 事務局

雑木林視点において、「雑木林で見かける。」という表現は、ふさわしくなくても見かけるということにもなるので表現が難しかった。

#### 委員長

確かに難しい表現である。例えば、隣地から5メートルの範囲で、非常に刈り込んだり、萌芽更新したりしている。そこに日照を確保していたり、家が日陰になってしまうこともあるが、色々な条件に応じて新しい生態が生まれる。そこをどう管理していくかということである。それは、先ほどの林辺、林床部の関係でもある。それをうまく応用しながら、あるべき姿を追求

していかざるを得ない。安定したものを求めてやらざるを得ない。雑木林の中の通路形態になっているところにヘラオオバコが生えているが、これも一つの安定した姿だから認めざるおえない。ヘラオオバコは要注意外来種植物に指定されているからそういう議論はある。しかし、生活との関わりあいの中で5メートルにするのか、10メートルにすれば絶対守れるのかということがこれからの問題である。38年くらい前の状態に持っていきたいという志を高く持っていたほうがよい。薪炭を採っていた時の美しい雑木林というイメージである。逆に雑木林調査隊の皆さんは、どういうイメージを持っているか伺いたい。

#### 調査隊

園芸種の野草が雑木林に捨てられると繁殖するものもある。後からみると、それが自然に生えたものか人工的なものかわからない。綺麗だとか見た目の判断だけでなく何か区別ができれば、40年前の小平とどう違うかはっきりわかるのではないか。

#### 委員長

大きい問題である。

#### 調査隊

今後の活動計画の中に農家に調査に行くようだが何軒くらい予定しているか。

#### 事務局

2～3軒を予定している。森のカルテガイドブックに森の調査の中に、どうやってそれに臨むのかが書いてあるので、それに基づいてやってみようと考えている。

#### 調査隊

農家で実際にやっていた方というのは、現在は高齢の方になると思う。私の先輩にも村山の貯水池の近くにいる。その方も木を切って薪にしていた。小平の平地林とは違うが、当時の話を伺ったことがある。その方は戦争直後が小学生、旧制中学で、良く働かされたそうである。下草刈りは大きい木が育つために毎年やっていたそうだが、植物学者ではないから、詳しいことはわからないという。今度お話しを伺う方も同じ様なことだと思うから、どういうふうな森だったかと聞くのは難しいのではないか。

#### 事務局

思い出調査ということなので、どこで遊んだとか、何をしていたとか、お父さんお母さんが作っていたものとか、ご高齢の方も小さいころの事を刻銘に覚えていたりもするので、そういうことを引き出せば良いかなと思う。今の植生の調査とは少し違う内容の聞き取りにはなる。

#### 委員長

広い角度から、一般的なことも含めてご意見はないか。

#### 調査隊

小平に住んでいたわけではないが、通勤などの時に電車の窓から林を見ることも多かったが、当時は松が多かった。小平の雑木林も松が多かったのではと思う。

#### 委員長

そういう話しも良い。小川九郎兵衛の新田開発の図面には、玉川上水や野火止用水沿いなどに松の木が表現されている。松の木はいつごろまでとか、色んな角度から思い出を聞くということもできる。すべて役に立つということではないが、もしかしたら、あの時の話と役に立つこともある。

雑木林の視点についてはこれでよいか。

## 事務局

網掛けをしている部分は、前回の雑木林調査の草、樹木やキノコの同定結果である。その一覧のに並んで同名の種が記載されていれば雑木林に生息する植物たちではなかろうかといった見方をする。もちろんこれだけで判断するわけではなく、参考にしていくものであるが、雑木林に関係する様々な図鑑や報告書に掲載されていればいるほど典型的な野草であるといった表現ができるのではないかと思っている。突合しない種の中で、あきらかに、常緑性で繁殖力が強い低木などは、林庄を被圧してしまう結果、野草類が芽吹かないため、雑木林の環境に影響する可能性が高いので、それなりの表現が必要と考えている。

## 委員長

そこら辺に踏み込むのはよく考えた方がよい。あつていいかどうかの判断ではなく。雑木林に下草刈りなどを定期的にやらないと、はびこる植物というような表現にするのならよい。

一方、外来種はだめである。オドリコ草はよいが、ヒメオドリコ草はだめなど。外来種は基本的には雑木林には無いものである。有史以前に外国からきたものもあるかもしれない。その辺はカテゴリーをもう少し練ったほうがよい。今言ったように、はびこる植物とか。シュロなどもそうである。ヤツデ、アオキなど。

## 事務局

ユズリハはどうだろうか。

## 委員長

ユズリハも常緑であるから同じである。最近ではトウネズミモチなどの外来種が多い。外来種だったら初めから除去すべきである。

ユズリハは、下草刈りをやらないと出てきてしまう植物である。シロダモ、ヤブニッケイ、などもそういうジャンルである。逆に言うと、ジャンルを先に決めていって当てはめるというやり方もある。これは外来種だから除去すべきとか、先ほどの話の園芸種とか、例えば、ユリがもしかして、カサブランカだったらまずいわけであるから。いくつかのカテゴリーとか言葉を作って分類した方がよいかもしれない。雑木林にふさわしいもの、下草刈りをやらないと繁茂するものとし、出てくるのはしかたがないし、認めざる負えない。

## 委員

38年から40年前の雑木林に戻すのならそれを除去しないといけない。

例えば、今年、ある保存樹林の南側にオオブタクサが繁茂していた。雑木林でただ一つあそこにオオブタクサが生える。昨年除去をしたのに今年も大量に生えている。これを徹底的にどうするか。民有地なので市から除去してくださいと依頼するのか。

## 事務局

所有者と相談し、昨年除草して、更に今年春に除草したのだが。夏には繁茂していた、

## 委員長

外来種でも点在的に侵入してくるやつ。群として、ある一定環境の中で繁茂してしまうオオブタクサなど他にもあるが、分けて考えないといけない。外来種といえどもそう簡単な話ではない。その時、市はどこまでやるのか、判別だけか、指導するのか、お願いするのか、場合によっては市がお金を出して頼んで除去するのか。ここでこういう話しをすると手立てを考えなくてはならなくなってしまう。それは、もしかすると38年位前をイメージするなら、そういうことをやらざるおえない動機づけになるかもしれない。雑木林の視点からすると波及的に

そういうことがでてくる。

#### 事務局

役所的に考え方からいくと、長期的に、最終目標は高く38年位前のライフラインが整備される以前の時代にさかのぼるが、段階的にやっていかないと財政も追いつかない。

まずは、樹木の高さを林辺部から少しおさえていきながら、伐採した後に、ほっとかないで低木などを植えてみている。しかし雑草が強い。段階的にやりながら、だんだん高さを揃えていき、そこから中の植栽などにも手を加えていく。並行して下草の管理はやっていかなければならないが、中々きめ細かな林床管理はできない。

#### 委員長

そうである。雑木林探険隊を大きくして、市民活動の中で充実していくしかない。行政が全てをやるのは無理である。

#### 事務局

さっきの話しに出てきた、アオキ、ヤツデなど本来確実に無かったものや繁殖が強くて他のものを被圧する植物は気をつけていかななくてはいけない。

#### 委員

雑木林視点の所は今後増やしていく必要がある。

#### 委員長

これは永遠の課題である。ある時の時限的なまとめ方はあるが、調査をして、内容がわかり、その時にまた考えなくてはならない。状況が変わっていくから、もう一度原点に立ち戻ってやっていかななくてはならない。これで決めたら、ずっとこれで行くというものではないと思う。森のカルテ委員会で皆さんに調査してもらっているのは、そこで意義があると思う。調査を色々してもらって、今回も園芸植物や外来植物や色んな植物がたくさんあって出してもらった。それを調べてもらってふさわしいものかどうかは別として、ふるいにかけてカテゴリー別に分ける等の作業に意味がある。

#### 事務局

表現としては色々あると思うが、せっかく文献との突合をしているので、突合数が多いものについてはそれなりの雑木林の典型的な野草であるという表現をしたい。

#### 委員長

雑木林視点の表現のしかたを類型的に考えて、それを当てはめるようなしくみがよいと思う。

#### 事務局

体系的に類型的に考える必要がある。一方、あまり硬い表現もしたくないと考えている。

#### 委員長

わかりやすい言葉でよい。例えば、視点1は萌芽更新しないと自然に生えてきてしまうものとか、色々考えてほしい。

#### 委員長

3パターンにかぎらず、視点が多いほど運用は楽である。あまり白黒で分けてしまうと苦しくなるから、何パターンも持っておくとよい。アカメガシワなど木が枯れると発生する木等、色々あったほうがよい。

徐々にできてくると思う。季節で植物が違う。秋になるとまた違う植物が出てくる。

2月3月の早春はやっていない。そういうのを全部やって、一つのパターンをみて、どうい

うふうに分類するのかカテゴリーを決めるというのはあり得る。

#### 事務局

体系的に類型的に雑木林視点を考えるとともに、現段階では弾力的表現にしておき、4シーズンやってから雑木林視点を増やしていこうと思っている。

#### 委員長

暫定的な表現で、だんだん増やしていけばよい。

#### 事務局

雑木林の視点については、それなりの分類をするのに、まだ調査結果が少ないので4シーズン通して調査をしてからということにするが、今回雑木林の視点ということで出したので、その卵になるような事を出していきたい。

#### 委員長

先ほどの委員の話のような、自然に生えてきてしまうものというジャンルなどが視点だと思う。それを積み重ねてきたものが雑木林の視点である。38年位前の薪炭林について目標にするというのが一つの基本的な視点になる。逆に言うと、これは毎回そのことについて言わなくてもよい。これは物差しみたいなものであり、皆が共通した正確な物差しを持っているということである。

### 4 第4回楽しさ森<sup>2</sup>について調査企画案について

#### 委員長

ルクスと木もれ日は連動するか。

#### 事務局

同じ光でも木もれ日の場合は濃淡がある。黒か白で2パターンに分けて色を塗る。

#### 調査隊

3つか4つに分けて写真にしたらどうか。明るさを比べて○とか×とか△にすれば簡単である。

#### 委員長

写真を撮った方がよい。曇りと晴れの日と同じ時間の写真を撮っておくと事前にわかる。曇りと晴れは違ってくる。

写真は予備知識として持っておく。皆さんが実際に調査をする。外も照度計で測って、森の中の明るい所とのルクスの対比もあるか。

#### 事務局

外は意識していない。

#### 委員長

林辺部も同時間のルクスを計測しておいた方がよい。

#### 調査隊

森の中とはいえ太陽の光が反射され、昼間はかなり高い値がでるのでは。

#### 調査隊

木もれ日になっても直射日光の所はあるのでは。

#### 事務局

それは計測しても10万ルクスを超えるから、直射日光とする。照度と明るさの目安とい

うのがあり、直射日光は10万ルクス。晴天の午前中の太陽光が6万5千ルクス、晴天の午後3時の太陽光が3万6千ルクス、曇り空の太陽光が3万2千ルクスというようなデータがある。

実際にテストしたところ、林の中の直射とは思われない所は5万、6万ルクスであった。林の中の直射日光のところは10万ルクスを超えて計測不能であった。

**調査隊**

測定面積は点であるか。

**事務局**

このくらいある。(直径3センチくらい)

**調査隊**

そこに直射日光があたると10万ルクスを超えるのか。

**事務局**

そうである。

**調査隊**

測る時はそこに木もれ日があって、少し陰った感じが無いといけないのか。

**事務局**

明るい所と中くらいの所と真っ暗な所を出そうと思う。

**委員**

ルクスがその時々で多少違うから、その時々の木もれ日と違うから外を測っておく必要がある。

**委員長**

そういうことである。まったくの直射と比較ができれば。

**委員**

木もれ日の照度を測るのだから、その日の直射日光の照度によって、木もれ日の照度も違って来るから計測の必要があるが、林外の計測10万ルクス以上は計測不可能なので、当日の照度と木もれ日の量を調べるということであるか。

**調査隊**

通常の光と林の中の明るさの差を調べたいのか。外のルクスに対して、林の中の明るさは何パーセントか比べたいのか。晴天の日と雲のかかっている日では違って来る。ルクスというより、差を知りたいということか。

**事務局**

計測ができる範囲でも晴れている日と曇りの日では当然違っているが、知りたいことは、それを数値としてバックボーンで持っていて、皆さんが気持ちよさそうだなという木もれ日の暗さや濃淡の割合、平均ルクスなどを何回か数値がとれるとおもしろいと思う。例えば、ホームページに木もれ日ってこんな感じと掲載した時に、興味を持つ人がいると思う。

**委員長**

市民に、カンカン照りの所より雑木林の中に入ると気持ち良いというのを具体的な効果を示せるかもしれない。

**調査隊**

中央公園の用水路沿いの木もれ日の小径も季節によって違う。濃淡が違うから。木の間から

光が差し込むのが木もれ日なので、季節に関係なく気持ちが良い感覚がある。林の中でも曇っている光と直射日光が入ってくる時では気持ち良さが違う。例えば、玉川上水側と道路側では3から4度温度が違ってくる。これが気持ち良さの差だから、そういう差を出す関係でよいのでは。

**事務局**

濃淡があるから、それが気持ち良さを感じる差を出していると思う。それを数字にしようということであるが、計測機の問題でその差が正確には測れないが、ある程度のパターンとしての差は計測できるであろう。

**委員長**

やり方を覚えれば秋でもできる。10月の思いで調査の時にできるチャンスがあるか結果をみて判断すればよい。検討する。

**事務局**

小平だけのオリジナル調査なので、ぜひ皆さんご協力ください。これが話題になればおもしろいと思うので。

5 今後のスケジュール

7月28日（土）調査 予備日8月5日（日）

9月13日（木）第4回森のカルテ作成準備委員会

**事務局**

第3回森の調査結果は手直しがある為、ホームページへの掲載は時間がかかる。

6 その他

**委員**

今までホームページに載せているが、検案件数はわからないのか。

**事務局**

わからない。ホームページ担当課ができないと言っている。

**委員**

庁内でもやらないのか。

**事務局**

庁内でもやらないのである。逆にやって欲しいと要望を出したことはある。

**委員**

この調査をどのくらいの市民の方が見ているかわからないのか。

**事務局**

そうである。見てくれる方がいることがわかれば、こちらのモチベーションも上がっていくので知りたいのだが、そういう予定はないとのことである。

以上



平成 24 年度 第 3 回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録  
及び第4回楽しさ森<sup>2</sup>調査についての報告

開催日時

平成 24 年7月28日(土曜日) 9 時～16 時 00 分

開催場所

中島町地域センター2階 集会室及び近隣の雑木林の森

出席者

- 1 小平市森のカルテ作成準備委員会  
椎名委員長・山田委員
- 2 雑木林調査隊  
6名参加
- 3 事務局  
2名

調査内容

- 1 野草の同定とは何でしょう。
- 2 同定作業の範囲を決めましょう。
- 3 野草の同定作業を中心とした森の調査を始めましょう。
- 4 こもれ日調査を始めましょう。

< 報告内容 >

- 1 野草の同定とは何でしょう。

生物の種や名を調べることをいう。種を決定するには、文章や写真による説明が、その仲間に共通の特徴であるのか、種を判別するのに使える特徴であるのかを区別することが大事である。

**【ポイント】**

まずは植物などの種類が分かることが、森への興味のきっかけとなり、更にその植物の性質などを調べることで森の現状や森の歴史そして森の魅力を感じることになる。

- 2 同定作業の範囲を決めましょう。

広範囲の植生調査も必要かもしれませんが、じっくりと同定作業を行うには、森の林縁部と林床部も含んでコンパクトサイズで実施しましょう。

**【ポイント】**

午前中は同定するための写真収集、サイズや香りの情報収集が中心で、午後にその写真などの情報を全員で共有して(このことを振り返りと言います)、図鑑などから同定作業を行う。そのような作業ができる程度の調査範囲を選ぶ。



3 野草の同定作業を中心とした森の調査を始めましょう。

広範囲の植生調査も必要かもしれませんが、じっくりと同定作業を行うには、森の林縁部と林床部も含んでコンパクトサイズで実施しましょう。

【ポイント】

午前中は同定するための写真収集、サイズや香りの情報収集が中心で、午後にその写真などの情報を全員で共有して(このことを振り返りと言います)、図鑑などから同定作業を行う。そのような作業ができる程度の調査範囲を選ぶ。

ID	草	2012年	夏	29	種類	ヤブラン
A班調査						
特	徴	多年草。高さ30～60cm。葉は線形。穂状に小さな花を多数つける。開花(8～10月紫色)				
雑	木	雑木林で見られることもある。				

特徴は、植物の由来や性質を中心に記載する。

ID	樹木	2012年	夏	30	種類	ヤマグワ
A班調査						
特	徴	落葉小高木。高さ3～15m。葉は卵型～5裂。葉は6～14cm、養蚕用、実は食用、材は建築用材と利用された。				
雑	木	養蚕が盛んだった多摩地域では、いたるところで発芽成長する。雑木林の林辺部で見られることもある。				

雑木林視点が一番の特徴。同定するだけでなく、歴史ある小平の雑木林との関わり方について記述したも

この日の調査では、36種類の草や木そしてキノコなどを同定した。詳細は別紙調査結果表のとおり。

#### 4 こもれ日調査を始めましょう。

雑木林での日照の代表的なものに木もれ日がある。この木もれ日の雰囲気を知度を計測する。この木もれ日の雰囲気を照度計による計測数値と合わせて、影と日当たり部分の割合を表した木もれ日指數的な表現できればとのことでチャレンジしたもの。

太陽が真上の位置になる時間帯で、新緑の季節の木もれ日が気持ち良く感じられる箇所を選ぶ。そこに調査員の人数分に区画した1㎡ぐらいの大きさの模造紙を置き、木もれ日があたっていない樹木の影部分をだまかに着色する。1区画全体に対する着色されていない部分の割合を算出し、全区画の日照部分の平均値を出したものを木もれ日指數としてみた。

(やり方)

- ①こもれ日の良いイメージの場所を雑木林調査隊で話し合っ決めて。
- ②模造紙の天地を方位計の南北線に合わせる。
- ③決定した場所の近くの目印2カ所から模造紙の角までの距離を測っておく。
- ④決定した場所の、温度や照度などを計測する。
- ⑤決定した場所の写真を撮影する。
- ⑥決定した場所に段ボールを置く。
- ⑦段ボールの上に模造紙を置き、何班かに分けて記載する。(影を鉛筆で黒く塗る。)
- ⑧模造紙が見えるように集合写真を撮影する。
- ⑨地域センターに戻ってから、模造紙を適当に分割して、影のコマ数をカウントして集計する。  
(模造紙は1㎡で100コマが記載されている。)

【簡単な地図】



実際に記録した「木もれ日」



側点	距離	備考
コナラー-B	182CM	
コナラー-C	252CM	
木杭 -B	683CM	
木杭 -C	657CM	

ブロック名	影コマ数 (b)	b/a	影コマ数の割合 (%)	影の面積 (㎡)	
91	NO91	0.60	0.006	0.60%	0.006000
92	NO92	0.70	0.007	0.70%	0.007000
93	NO93	0.55	0.0055	0.55%	0.005500
94	NO94	0.60	0.006	0.60%	0.006000
95	NO95	0.30	0.003	0.30%	0.003000
96	NO96	0.20	0.002	0.20%	0.002000
97	NO97	0.40	0.004	0.40%	0.004000
98	NO98	0.30	0.003	0.30%	0.003000
99	NO99	0.10	0.001	0.10%	0.001000
100	NO100	0.30	0.003	0.30%	0.003000
合計		52.05	0.5205	52.05%	0.520500

※1コマは0.0025㎡です。

気持ち良いと思った木もれ日は、全体の52%が影で、残りの48%が光が当たった部分だったことがわかります。思ったより影が多いんですね。  
小平風に言えば、**木もれ日指数48%**ということになります。



ブロック名No1の影コマ数 0.85コマ



## 平成 24年度 第4回小平市森のカルテ作成準備委員会 会議要録(報告)

### 開催日時

平成 24 年9月13日(木曜日) 13 時 30 分～15 時 40 分

### 開催場所

小平市役所3階 庁議室

### 出席者

椎名委員長 山田委員 池貝委員

雑木林調査隊 5名

事務局 2名

### 会議次第

#### 1 開会

#### 2 事務局報告

#### 3 議事

- (1) 雑木林の視点について
- (2) 第4回楽しさ森<sup>2</sup>調査結果について
- (3) 第5回楽しさ森<sup>2</sup>調査(思い出調査)について
- (4) 第6回楽しさ森<sup>2</sup>調査について
- (5) 今後のスケジュール
- (6) その他

#### 4 閉会

##### 配布資料

- 資料-1 第2回森のカルテ作成準備委員会会議要録について(報告)
- 資料-2 森のカルテづくりに関するホームページについて(報告)
- 資料-3 第3回楽しさ森<sup>2</sup>調査で見られた樹木、草やキノコたちの一覧(報告)
- 資料-4 雑木林の視点について(案)
- 資料-5 雑木林の野草の一覧と調査結果の突合表
- 資料-6 第4回楽しさ森<sup>2</sup>調査で見られた樹木、草やキノコたちの一覧(報告)
- 資料-7 小平の雑木林に植生する可能性のある植物とキノコ及び 2012 年夏の森の調査結果の比較表(案)
- 資料-8 第5回楽しさ森<sup>2</sup>調査(思いで調査)ワークシート(案)
- 資料-9 第6回楽しさ森<sup>2</sup>調査企画(案)
- 資料-10 第6回楽しさ森<sup>2</sup>調査ワークシート(案)
- 資料-11 今後のスケジュール(案)

## < 議事 >

### 1 雑木林の視点について

#### 委員

資料7の中のキノコの類型については難しい。東京どんぐり自然学校による2011年の雑木林調査結果なのでこれを資料5の類型 ABCDE に確定して一般的な類型としてしまうのはどうだろうか。皆さんに検討してほしい。

#### 委員長

資料5の模式図は考え方を示したもので、それを参考文献として利用した具体的な植物一つ一つに類型を当て込むことは無理かもしれない。正常な形で誰が見ても典型的な雑木林として管理されていればこのような問題は起こらない。小平の雑木林のほとんどが、外来種などに侵入されているから、いろんな植物を雑木林で見た時に、これはこういう植物なんだと広い考え方をしないと森のカルテの調査はできない。また、統計的になるように、いくつもの雑木林を調べて、その結果としての類型であればかまわないが、そこまでの調査は難しいであろう。あえて、資料7の調査結果の比較表に類型は書かなくてもよいのではないか。

#### 委員

模式図は、皆さんと共通の資料として持っておいて、頭の整理をするのに使う。やるのなら、特定外来植物などははっきりしているものに留めたらどうか。それ以外についてはそういう考え方もあるのだという概念になる。もともと雑木林は人工的に手を加えたものであり、歴史的な変遷の中で生まれたものであるから生物学的な違いとは整合できない。

#### 委員長

特定外来植物、要注意外来植物ぐらいは入れることも考えられるが。

#### 委員

特定外来種や要注意外来植物は、環境省が指定しているので出しやすい。Bの特定外来種以外の外来種が難しい。

#### 事務局

外来種という言葉は非常に定義が難しい。様々な分野で決めていることで、一般的、普遍的概念で外来種とはこうだということは中々ないようである。様々な団体などが、帰化種、移入種とか、似たような表現をしているようである。外来種リストとしては北海道のブルーリスト2010ぐらいであり、東京都はリストが作成されていない。もともとは、IUCN(国際自然法連合)という所で定義している。ヒメオドリコ草については、国立環境研究所の侵入生物データによると外来種であり、侵入年代は、1893年に東京都駒場で記録がある。もとは、アジア、北アメリカで分布と記録されている。ヒメオドリコ草においては外来種であると判断できるのではないかという事である。スズランについては、高い、高山的な環境で自生するらしいが、関東のスズランは同一性であるという考えもある一方で、色んな方が語っているので、一概には言えない。

がいらいしゅ  
(外来種)

国際自然法連合の定義では、外来種とは「過去あるいは現在の自然分布域外に導入された種、亜種、あるいはそれ以下の分類群を指し、生存し繁殖することができるあらゆる器官、配偶子、種子、卵、無性的繁殖子を含むもの。」とされる。日本の外来生物法(特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律)では、概ね明治以後に外国から日本列島に人為的に導入された種、と限定している。

委員長

森カルテ上では外来種ではないかといった表現は可能だが。

委員

特定された外来種だけをいれる。ヒメオドリコ草くらいなら特定されてわかっているからDに入れておく。という形でよいのではないか。

委員長

特定外来種と要注意外来植物をいれておけばよい。また入れるとすれば、類型という概念ではなく備考で良いのではないか。

委員

地域によって違う。東京都だけでも本土部と島しょ部に分かれている。本土部は更に地域で分かれている。表に入れるのであれば、環境省の特定外来種と要注意外来植物、またいわゆるレッドデータブック(Red Data Book、RDB)の絶滅危惧種をいれたらどうか。

とくていがいらいしゅくぶつ  
(特定外来種植物)

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律に基づき、生態系、人の生命・身体、農林水産業に被害を及ぼしたり及ぼすおそれのある外来生物(侵略的外来種)の中から、規制・防除の対象とするものと指定された植物のこと。有識者の意見を聞いて環境大臣が指定する。

ようちゅういがいらいしゅくぶつ  
(要注意外来植物)

特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律において、特定外来種には選定されていないが、適否について検討中、または調査不足から未選定とされている生物種。環境省が指定する。

(レッドデータブックの絶滅危惧種)

絶滅のおそれのある野生生物について記載したデータブックのことである。1966年にIUCN(国際自然保護連合)が中心となって作成されたものに始まり、現在は各国や団体等によってもこれに準じるものが多数作成されている。日本で単に「レッドデータブック」と言うときは、環境省によるもの、あるいはIUCNによるものを指すことが多い。

委員長

近年では、植物のDNA鑑定が始まって、カタクリ、ニリンソウなど、他の所の物を持ってきてDNAが違うというようなことが始まっている。分類がより細かく、そういう方向に進みはじめているのは事実である。ある意味正論ではあるが、狭い概念になり、つまらない話しになってくる。類型とするとこちらの意見が入ってしまうので備考ならその時のデータに過ぎないので構わない。

## 2 第4回楽しさ森<sup>2</sup>調査結果について

事務局

一覧のID番号4番のアズマネザサかクマザサなのかについて検討願いたい。

委員

問題は写真の一番先端の部分である。そこを判断するとアズマネザサだと感じる。今小平に唯一玉川上水にクマザサがある。他の雑木林はアズマネザサと思われる。

委員長

クマザサはほとんどが植栽したものだと思う。アズマネザサは自生している。

委員

クマザサは玉川上水にも植栽されたものがある。もう少し成長すれば判定もしやすいが、アズマネザサであると思う。

委員長

アズマネザサとする。次に、3番のアジサイであるがアナベルという種類で、外来種である。事務局の説明はセイヨウアジサイのように思われる。セイヨウアジサイとアナベルは違う。セイヨウアジサイというのは、日本のアジサイがオランダなどに行って、逆輸入したもの。アナベルは原産国が日本ではない。新種である。外来の園芸種で、類型だと確実にDに入ってしまう。武蔵野の雑木林で自生しているのはほとんど無い。特にこれはアナベルだから、改めて特徴や雑木林視点を考えなおさないといけない。

事務局

一覧のID番号5番のイロハモミジについてはどうか。

委員長

昔は小平にはなかった。薪炭林で使わなかったから切ってしまったので、薪炭林ではあまり見られないという表現は正しい。今はイロハモミジが入ってくる可能性がある。小平らしい雑木林として切ってしまうのかどうか。しかし、雑木林の楽しみとしては紅葉するときれいであるが。

委員

正しい小平の雑木林の視点が、今の雑木林を薪炭林にして、産業経済林にしていく方向でいくのか、方向性によって対応は違ってくる。

8番のオニドコロの「雑木林の林縁部でよく見かける」という表現はこれでよいか。

委員長

大丈夫である。

事務局

一覧のID番号14番のコムラサキ(コシキブ)の雑木林視点だが、「ムラサキシキブと同様に雑木林の低木としてよく見かける。」としたので追加で良いか。

委員長

ムラサキシキブが今後この一覧に出てくるかどうかわからないが、ムラサキシキブが代表であるから、このような表現でよいのではないか。

事務局

17番のイヌシデはどうか。

委員

総称でシデとしたが、これをイヌシデと確定できるかどうか。

委員長

イヌシデとしてよいと思う。

委員

玉川上水にシデは3種類ある。クマシデ、アカシデ、イヌシデ。葉の脈や位置、鋸歯などで見分ける。大木があって、雑木林に入ってきているのはイヌシデが多い。低地の湿気の多いところに生える。

<sup>きよし</sup>  
(鋸歯)

植物の葉の縁にある、ぎざぎざの切れ込みのこと。

委員長

結構ある。小平の雑木林でもイヌシデの大木がある。



委員

山の雑木林はイヌシデではなくクマシデになる。イヌシデの場合は低地である。白樺の場合は800m以下ぐらい、それ以上になるとダケカンバになる。それと同様である。

事務局

ID番号26番のヘクソカズラ、林縁部に大量発生するとあるが検討願いたい。

委員

ツル性の植物なのではびこる。

委員長

大量に繁茂することもある。そんなに臭くない。手もみすると臭くなるかもしれない。

委員

ツル性植物は他に色々ある、カラスウリ、ヒルガオなど。荒地や人口的なところに多いからその表現も入れるか。

委員

ヤブカラスやヘクソカズラは樹木を枯らすことが多い。

委員長

クズもある。先ほどの資料5の模式図の中で、F:萌芽更新地・若木植栽地で、つる性植物等の繁茂で成育に悪影響のある樹木・草と書いてあるが、それがそうである。しっかりした高木、亜高木、低木としっかりした雑木林だと中々侵入できないのだが、萌芽更新して、植栽したような所には、ブカラシ、ヘクソカズラとかが侵入してきて、葉の量が少ないから、覆われて枯れてしまう。

事務局

資料5の模式図 F 的な要素の表現にして、ヘクソカズラとは、ヤブカラシとはなど併記していく。次に30番ヤマグワはどうか。

委員長

小平、立川の特徴。養蚕の名残である。いたるところにあって、種を鳥がどんどん蒔いている。外国ではマルベリーと言う。桑の実は美味しいから。種を取らなくてはならないが、ジャム等にできなくはない。

委員

桑の実のことを「どどめ」(関東の方言)とも言う。

委員長

自然に生えたのだろうと思う。小平中央公園は蚕糸試験場だったので桑の種もたくさん眠っている。桑の葉を育てて、桑の葉を取る人が集めて養蚕農家に届けた。今でも葉蚕室を持っている農家もあるだろう。

委員

武蔵野には8種類の桑があると言われている。

小平市の隣の砂川(立川市)は養蚕文化財として武蔵野8種類を保全保護し市内の公園に桑を植栽している。古民家の屋根裏には養蚕室がある。雑木林視点からしてもこういうものが今後生えてくる。

委員長

潜在的な種子である。雑木林と同じように桑畑をどうするかという話もあったがどんどん無くなっている。ある意味、林辺部にクワがあるのは小平の雑木林の特徴である。

## 事務局

今回たまたま、調査している所で子ども達が虫取りをしていたので写真をとった。No.34、35、36の蝶や昆虫についてもこのスタイルでよいか検討願いたい。

## 委員長

このスタイルでよい。カブトムシ、カナブン、アゲハチョウなどクヌギやコナラの樹液の所に昆虫レストランのように集まるのが雑木林の特徴である。コクワガタ、ノコギリクワガタ、オオクワガタも出る。

## 委員

調査していくうちに出てくる。生物多様性という視点から見たら、一部でもこんな昆虫がいたということでもよい。昆虫というのは食物連鎖の一つである。クヌギやコナラがなければ樹液を吸うカブトムシもいはずである。外来種の虫も温暖化で入ってきているが、アカボシゴマダラチョウは従来西日本に生息していたのが何れ入ってきたか。雑木林の視点の課題、宿題を与えたということでもよい。蝶はカタカナ表記にしたほうが良い。

### しよくつれんさ (食物連鎖)

例えば、草の葉をコオロギが食べる→コオロギをカマキリが食べる→カマキリをスズメが食べる→スズメをオオタカが食べる→オオタカの死骸から生成された物質は植物の栄養となる…といった生物間のつながりがある。このように、食う・食われるの関係をたどっていくと、ある一定の場所の生物間に、1つの鎖状の関係を見いだすことができる。食物連鎖とは、このような生物群集における生物種間関係を表す概念である。食物連鎖のバランスが保たれることは、生態系が維持されていく上で不可欠なものである。

## 委員長

土を掘ればいくらでもいるが、気がついたものを入れればよい。

## 委員

今、ハイロチョッキリが繁殖シーズンである。雑木林のコナラの小枝にドングリが付き、その先端が鋭く切れ地上に落ちている。ハイロチョッキリのしわざである。落ちた枝のドングリに穴をあけ、産卵している。ドングリを水に入れて浮いてしまうのは、ハイロチョッキリがドングリに産卵し、空洞になるためである。雑木林の視点から見ても良い視点である。雑木林に関わりが深いものにオトシブミという昆虫もいる。

## 委員

アカボシゴマダラチョウが正しい。今までゴマダラチョウはこの近隣にたくさんいたそう。その生殖地はアカボシゴマダラチョウ生息地に代わっていると言われている。

## 委員

食草が同じなので、どうしても強い方が勝っていく。

### しよくそう (食草)

ある昆虫が食物としている植物を食草という。

## 事務局

先ほどのオトシブミはどうか。

## 委員長

オトシブミは、雑木林ではエゴの葉っぱをクルクルまいてその中で幼虫を育てる。名前は、巻いた葉が、昔の落とし文(ふみ)に似ている所からこの名前がついた。

事務局

ID37番の林辺部の幼木類としてこんな感じで写真を掲載したかどうか。

委員長

調査時に特定しなかったか。エノキの幼木とかなかったか。

事務局

後ほど検討する。

3 第5回楽しさ森<sup>2</sup>調査(思い出調査)について

4 第6回楽しさ森<sup>2</sup>調査について

(事務局より議題(3)(4)の合同審議の提案があった。)

委員

思いで調査の時に昔の写真などあれば用意してほしい。生活様式などがわかりやすいから。

事務局

航空写真と生活様式のわかるものなどの写真を準備する。

委員長

聞き取り調査は、どこかに来てもらうのか。

事務局

近くの公民館等である。

雑木林調査隊員

調査した樹林が変わったが誰が切ったのか。

事務局

間引きをしたとは聞いている。台風11号で2本倒木があり、危なく家屋に被害を与えそうだったので枯損木と古い高木を切った。

雑木林調査隊員

だいぶ変わったから比較ができないのではないかと。

委員

基本的には木は残っているか。

事務局

基本的には残っている。近隣への倒木被害の危険回避が必要な樹木と古木を対象とした間引きである。前回の調査からの変化についても記録を残す必要がある。

委員

どういう作業をしたか記録が残っているか。残っているのであれば次回調査でも参考にできないか。

事務局

残っていると思うので、資料を調べてみる。

委員長

切り株は残っているだろうから、今回切ったものが類推できれば、年輪が分かったりするなどの別の興味がわいてくる。萌芽更新されているかなど、来年への調査にもつながる。

事務局

サクラが萌芽更新されていた。

委員長

いつ切ったものか、それ以前にも切ったことがあるかなどわかれば調査の対象となる。新しく切ったのは切り口でわかる。第2回実施は1月だからその後に切ったか。

委員

雑木林視点から見ると、最終的にはこういうものができ、では、どうしていくのかという問題がある。その時には経過を調べていく必要があるから残しておく。それを基本にして保全体制を模索していく。

委員長

雑木林は、民間の所有であり管理者は地主である。地主の心配は、雑木林としてちゃんと育てるということもあるが、周りの住宅に被害を加えないということもある。被害が発生しそうな時にはそういう対処をすることも必要である。そのようなことから、周りの市民の方の安全を守るということが現代的意味として発生していることがわかる。台風で倒れたから危険回避のために切った。そして次の台風が来る前に対応することは管理者としては当然のことである。そのような管理者なり市の努力も分かってくる。

雑木林調査隊

ネムノキも切ったようで、小さな萌芽している。

委員長

それは雑木林視点としてどうか。樹種ごとに考えていくことも必要だ。

事務局

そういうこともどんどんわかっていけば業務に反映させていける。

委員

思い出調査では、言い伝えのようなもの、昔、祖父母や近所の方から聞いたというような話しも伺えるともっと昔を知ることができる。昔話、伝説も小平市にはあるようなので広がりかと思う。お話を伺うのは自宅の方がよい。話しの広がり、蔵の中から、何か関連した物が出てくるかもしれない。

委員長

場所は、相手の方の事情に任せる。昔話やだまされた話しなど。萱場(かやば)についての話しも聞きたい。植物学なことだけでなく、生活習慣、生活の中味などまで広げ、思いついたことは書きとめて質問する。食べた物や遊びは面白い。聞いた話では、エゴノキはしなるから何人かでゆすって足をジャンプした重みで上がったり下がったりして遊んだとか、下草もたくさんあって、ワレモコウなどがあったという。聞き方は難しい。具体的なことを挙げておいた方がよい。

委員

雑木林視点で伺いたいと思っている。野火止周辺はアカマツ林であったから、アカマツの針葉樹に共生するキノコはハツタケ等なので、お年寄りも採って食べていたかもしれない。

委員

食べ物かどうか。桑の実、サクランボ、ヤマモモなど食糧不足で食べて親に怒られたとか、サクランボ等は食べると口に色がつくからバレてしまう。ヤマモモを食べると子供は下痢をすると言われていたから親に怒られたとか。そういう記憶はあるのではないか。

委員長

今の委員の質問みたいに具体的にあげないとだめである。モミジイチゴ、キイチゴなど。しかしそれがわかるであろうか。奥様にも話し伺えると、女の子の遊びやテリトリーとか聞ける。

委員

奥様のご健在で近隣の方なら一緒に話しを聞きたい。

委員長

そうすることで思い出してくる。図鑑とか持って行って、見せて、食べたとか記憶をたどってもらえる。アケビ、ゼンマイなどの山菜など。山菜、キノコは名前が違えば書いていって後で調べればきっとわかるのではないかな。

委員

ナラタケのことをボキボキという方もいる。その由来なども聞けるかもしれない。

委員長

薪炭林で薪を採っていただけではない。雑木林が農家の方にとって色んな面で生活の一部であったことをはっきりさせたい。

## 5 今後のスケジュール

10月中旬に第5回思いで調査を予定する。調整のうえ後日連絡をする。

12月 1日(土)第6回 秋、冬の調査

12月 8日(土)予備日

12月21日(金)第7回森のカルテ作成準備委員会

1月 第8回森のカルテ作成準備委員会

2月 第9回森のカルテ作成準備委員会

3月 楽しさ森<sup>2</sup>ウォーク

事務局

思いで調査についての資料を事前に作成して配布する。当日事前に打ち合わせをする。

以上